

方言で知る 奄美の観光スポット

奄美博物館

はるか はるかぬ むかしら 自然とう 神様とう
世の中ぬちゆんきやが まあじんし 暮らし しつちやん
奄美大島かちがしし
自然とう 神様とう 世の中ぬちゆんきやぬ 暮らしば
むとうとうし いろいろぬ 「あまみ」ちゆうむんば紹
介しよん 奄美博物館かち

はるか太古のむかしから 自然と神と人びとがともに生き
てきた奄美大島へ
そして 自然と神と人びとの暮らしを軸に さまざま「あ
まみ」を紹介する奄美博物館へ

奄美市

トゥッカ



徳之島町

1億年めー でいきたんふーぐるし やれゆしが、
なちんや ていだが ぬんびゆんむんがにやってい、
きゆらかどうだれん。ちきやくなんや、かみいや
あまぬ たまぐなしばんば あれゆい。

1億年前にできたと言われている泥岩で、夏季には、朝日
が昇るのが見え、幻想的な風景を醸し出しています。近くには、
ウミガメやオカヤドカリの産卵場もあります。

高倉

高倉や にいば だっこくしやん むみとう つうぎいぬ
とうしいぬ たねいむみいぬ 保管ばしゆん 大事な
やくむいぬ あん 倉庫だりより。前や 27 たつ
ちりよたんぱん にいづくりぬ 減反や ぐるいぬ
う 環境整備ぬ難しやなりよてい なまや 5とう
ば 村なんてい 大事に 管理しゆうりより。

高倉は稲を脱穀した^{もみ}と、翌年^{たねもみ}の種籾の保管をする大切な
役目を持つ倉庫です。以前は27棟建っていましたが稲作
の減反や周りの環境整備が難しくなって現在5棟を村で管
理しています。

大和村

与名間海浜公園



天城町

天城町ぬう にしんほうなんあーてい 海水浴や、
カヌー、シーカヤック、ダイビングあしびやふかぬ
うんぬう レジャーを むじらーぐあさあゆい。

天城町の北部にあり、海水浴を中心に、カヌーやシーカ
ヤック、ダイビング体験などいろんな海洋レジャーを楽しむ
ことができます。

田検集落のバス停

わらぶんきやが 好きな映画ちいじてきちやくいさん
ばす停ぬ とうないなんにや、だいばん がじゅまる
ぬいぬ たつちてい、やねいんういなんや やすどうん
クインムンだか うん田検集落ぬばす停。

子どもたちが好きな映画のワンシーンに出てきそうなバ
ス停の隣には、立派なガジュマルの木がそびえ立ち、屋根
にはくつろぐケムムの像もある田検集落のバス停。

宇検村

なくさみ館



伊仙町

徳之島名物 なくさみ けえんぶつしいやていか、
なくさみ館ど。

あむいふれん かずいふけえん にやありゆうん
やんちじぬあり、運ぬゆたあていか、けいこどうれぬ
にやありゆんかも。

徳之島名物の闘牛を見るならここ。
全天候型ドームになっており、運が良ければ闘牛の稽古
の様子が見られるかも。

ホノホシ海岸

瀬戸内ぬ ひがしかたにあてい、かわとうん岩ちば
まるさん石べーりあん海岸、くるしゆぬ 荒波なん
まむれ「ゴロゴロ」転がりゆん 玉石ぐあぬ 鳴り響き、
めずらしやんけしきあてい ふかぬ海岸とうや
にやりかわとうんきがしよーおんちよ。

瀬戸内町の東部に位置し、奇岩や玉石の海岸で、黒潮
の荒波にもまれ「ゴロゴロ」と転がる玉石が鳴り響き、豪壮
な景観で他の海岸とは一味違ったものを感じることができます。

瀬戸内町

フーチャ



和泊町

サンゴ礁ぬ うしゆにひずらてい でいきたぬ
「フーチャ」。うしゆぬ ちゆーさぬ日は 20~70m
むしゆーぬ ふちあぎ、はつてぬつくいむ わるさなてい、
ゆーちあたしが、みーちはあーちゃん。

サンゴ礁が波に侵食されてきた「フーチャ」。波の強い
日には20~70mも潮を吹き上げ、農作物への被害も大き
かったため、4箇所のうち、3箇所は粉碎されました。

かせけんとうげ 加世間峠

かきんちじ ぼていらが にやーれん 西とう
東側ぬ 海ぼていぬ まーじん にやーれん とうぬ
あてい うん あたりや 函館山らが にゆんどろとう
にしゆんち いやってい りよとー。

加世間峠の頂上付近からは、奄美大島の東海岸と西海
岸を同時に見渡せる場所があり、くびれている地形は、函
館山からの眺めに似ていると言われています。

龍郷町

アーニマガヤトゥール墓



知名町

アーニぬ マガヤに あーぬ トゥール墓でいぬくとし
「アーニマガヤトゥール墓」でい あびらていうやぶん。1609年
那覇ぬいーちきちがね、島に 来ちやぬ 薩摩ぬむんきやぬ
なれし 墓は 出来たむでいち いやーていうやぶん。うやほ
ぬいゆーしは むるが墓でいち アーニちゆーだけあなんこ、
ふかぬ字ぬちゆーむ ちこーとうたむでいぬくとや、うぬ島ぬ
しゆうたぬ 墓やたむでいぬくとむ いやーとうん。

アーニ(赤嶺集落)のマガヤ(小字名)という場所にあるトゥール墓と言う事
で「アーニマガヤトゥール墓」と呼ばれています。1609年の琉球侵攻以降、沖
永良部島を訪れた薩摩の人々の影響を受けこの墓は造られたと言われていま
す。また、古老の話によれば、共同墓地として赤嶺集落以外の人たちも利用
した説やこの地域の豪族のお墓と言う説もあります。

サンゴの石垣

はじに やーくわさらんたみ、うやふじんちやーやー、
やしきまーり 石垣をば、とうめーてい。喜界じまー、
にやまむ 石垣ぬ ゆーぬくとうれんが、うんあーじむ、
あでいぬのー、昔んままぬ 石垣ぬ、いっぺー
ぬくとうれんど。

風に家屋を壊されなため、昔の人々は屋敷のまわりに
石垣を積みました。喜界島は、今も、石垣がよく残されており、
その中でも、阿伝集落では昔の面影を残す石垣が数多く残
されています。

喜界町

びどう 尾道



与論町

尾道や とうむい港ぬ いゆんがたなんあゆる
岬ぬふとうえーしが 昔 あまぐいしちやるとうーる
えーたいぎさい。にやもー 与論駅たーなぬ み
ちんあーがちゆくらりてい やんばるぬしまじまん
ちやー みやーりゆる ちゆらみちんあーなてゆん
どおー。

尾道は、与論供利港の西側にある岬のことで、昔、雨乞
いが行われた場所だったようです。現在は、与論駅までの
遊歩道が整備され、沖縄の島々を望むことができる名所と
なっています。

方言は集落により異なります。掲載している方言は、大島地区の市町村教育委員会からの回答を基に作成しました。

大島地区文化協会連絡協議会～2月18日は大島地区の「方言の日」です～

(事務局: 鹿児島県大島支庁総務企画課 〒894-8501 奄美市名瀬永田町17番3号 TEL 0997-57-7218)



©鹿児島県ぐりーぷ